

「春の企画展」


2019  
3.12(火)~5.6(月)

開館時間 ▶ 10時~17時30分  
(入館は17時まで)

会場 ▶ 1階企画展示室

休館日 ▶ 毎週月曜日  
(4月29日(月)・5月6日(月)は開館)

入場無料

 **しょうけい館**  
戦傷病者史料館  
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

〒102-0074  
東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下  
TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826

協力：古河歴史博物館

作品からみる戦傷病者

“想  
い”  
を込めて



[www.shokeikan.go.jp](http://www.shokeikan.go.jp)

「春の企画展」

# “想い”を込めて

～作品からみる戦傷病者～

先の大戦により、傷を負った戦傷病者は人生のさまざまな局面で多様な作品を残しています。本展では、当館所蔵の資料を中心に戦傷病者の作品を紹介します。各々の戦傷病者が自身のハンディを抱えながら作り上げた作品の数々…。

両眼失明の方が高齢になり、自身の心情を<sup>ふる</sup>揮った書。左腕に機能障害を負った方が戦争体験の想いを込めて彫った仏像。隔離生活を余儀なくされた方が道具の無いなかで作り上げたトランク等、そこには戦中・戦後に体験したさまざまな“想い”が込められています。

戦地へ赴き、受傷や発症によってその後の人生が大きく変えられてしまった戦傷病者の作品を通して、戦中・戦後の労苦を乗り越えようとした“想い”を感じ取ってください。

## 関連イベント

### 証言映像上映

内容：本展に関連する戦傷病者の証言映像を上映  
 日時：毎日 10:00～17:00  
 場所：1階証言映像シアター  
 その他：鑑賞自由・無料

	証言者	証言映像タイトル
A	立花 誠一郎	捕虜と隔離が打ち砕いた人生
A	吉岡 正雄 (利泰)	体験記をまとめて知った父の想い
B	浅木 加壽義	暖かい支援にささえられて ～傷痍軍人としての誇りと生きがい～
B	阿部 武一	シベリア珪肺～今も続く後遺症～
B	西ヶ野 九平	片脚を失くしても前へ進む
C	渡邊 重男 (文枝)	療養所は大きな家族 ～支えあい、助けあい～
C	木村 靖 (房枝)	夫の両脚となって共に歩んだ人生
C	内貴 直次	誠 (まごころ) で守られた命 —ニューギニア戦線にて—

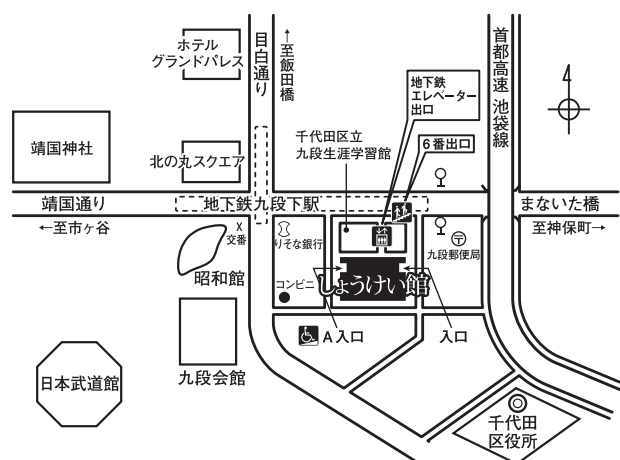
※証言者の( )は証言者の家族

※上映プログラムについて

上映プログラムA:①10時～11時・②13時～14時・③16時～17時 毎日3回上映  
 上映プログラムB:①11時～12時・②14時～15時 毎日2回上映  
 上映プログラムC:①12時～13時・②15時～16時 毎日2回上映

### フロアレクチャー

内容：学芸員による企画展の展示解説  
 日時：3/24(日)・4/7(日)・5/5(日) 14:00～14:30  
 場所：1階企画展示室  
 その他：当日参加自由・無料



- 地下鉄をご利用の場合  
「九段下」駅6番出口から徒歩1分(東西線、半蔵門線、都営新宿線)
  - 都営バスをご利用の場合  
「九段下」停留所から徒歩1分(高71系統(九段下～高田馬場駅))
- ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。  
 ※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。

2019年3月12日(火)～5月6日(月)

会場：1階企画展示室

開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)

休館日：毎週月曜日(4月29日(月)・5月6日(月)は開館)

**入場無料**

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

